

津々浦々

(50)

津久見市長 吉本章司

昨年11月末に平成25年度の地域

懇談会が終わりました。今年度は、「津久見市の健康づくりについて」をテーマに、市内各地区で417名の方の参加をいただき、特定健診の重要性を話してきました。健康の話以外の自由な意見交換の時間の中では、その地域ごとの要望、意見など多くの話を聞くことができました。特に、保戸島地区では、保戸島架橋について、多くの議論が交わされました。

この保戸島架橋問題につきましては、天候に左右されることなく、本土との往来が可能となり、急病人の搬送や災害時の支援体制の強化といった、緊急時の島民の安心安全をはじめ、産業や観光の振興などの観点からも効果が期待されることから、保戸島に暮らしている方々はもとより、四浦半島の住民の皆さんにとっても、津久見市にとっても大変重要な課題である

と考えています。

保戸島の人口は1月末の住民基本台帳では945人になっていまして、高齢化率も市全体で36.5%の中、54.6%に達しています。高齢者が多くなると、救急や夜間医療の問題や災害時の対応など多くの問題と向き合った場合に、できるだけ早目の架橋の建設が必要であると考えるのも確かです。

しかしながら、建設には多くの課題もあります。

地元の皆さんとの協議の中では、現時点で建設の賛否を含め様々な考えがあるように感じています。大分県離島振興計画の中でも、架橋建設については、「島民の方々にメリット・デメリットの情報を提供した上で、その意向を十分考慮しながら検討を行う」、また、架橋建設には欠かせない、島内および本土側の道路整備等も「合わせて検討していく」と記載されています。

平成17年に私が会長で保戸島・四浦間架橋等促進期成会が発足し、知事へ陳情に伺いました。知事からは建設の方法、橋の利用の在り方、保戸島ならびに四浦半島全体の活性化にどのように取り組むかを含め、島民、市民の統一した意見にまとめていく必要があると言われ、まずは四浦半島の道路整備からやっけていきましようとの話がありました。

具体的に考えますと、島の中心部までの道路整備や駐車場の整備を念頭に進めようとした場合、現行の漁港施設用地の見直しや埋め立て等も想定されることから、手続き面からも、予算面からも課題が相当大きく、かなりの時間を要するかと考えられます。

また、保戸島航路についても、架橋完成後は、国、県、市の補助で成り立っている現在の状況での存続はできなくなると思われます。

地域懇談会においても様々なご意見をいただきました。その中では、一日も早い架橋建設を願う切実な声も伺ったところです。早期の架橋建設を想定すると、緊急車両を除いて、

学校の近くまで車の乗り入れを制限する案が現実的ではないですかといったお話などもしたところですが、島民の皆さんの思いはそれぞれで、意見の集約には、まだまだ時間が必要であると感じたところです。また、架橋建設に向けては、島内での協議のほか、車の通行量の増加や工事の影響などが予想される、四浦地区の住民の方々のコンセンサスも十分に得ていく必要があると考えています。

いずれにしても、事業の実施に向けては、地域に暮らす皆さん方による、島の将来をどうするかについての意見のとりまとめが重要となります。このことについては、島内で活発に協議がされていることは承知しております。

市としても、必要な情報の提供を行いながら、島内での議論を深めていけるよう積極的にお手伝いをしていきたいと考えており、そうした中で、集約された意見に沿って、具体的な取組を進めていきたいと考えています。